聖母マリアの家

イエスは母マリアを最後まで行動をともにした使徒ヨハネに託した。ヨハネはイエス亡きあと、聖母マリアを伴ってエフェソに行き、マリアはそこで晩年を過ごしたことは前回紹介した。

しかし、聖地エルサレムを訪れた時、ゲッセマネ近くに「聖母マリア永眠教会」があった。どちらが正しいのだろうか。

それは野暮な考えであり、二千年前の出来事、いろんな伝説があるのは当然である。そんな軽い気持ちでトルコにある「聖母マリアの家」を訪れた。

キリスト教の最高会議〝公会議〟は紀元三二五年に開かれた第一回以降、今日まで二十一回開催されている。四三一年と四四九年に、エフェソの聖母マリア教会で第三回公会議が開催された。

そこでイエス・キリストの人性と神性、聖母マリアが神の母であることが確認された。マリアの晩年についても諸説あったが、エフェソ説が認められた。

が、具体的な場所などは不明とされていたが、十九世紀初め、トルコに来たこともないドイツ人のシスターが場所や形などを予言し、それにもとづいて探したところ、一八九一年に予言通りの建物跡が発見された。

「聖母マリアの家」はその跡地に建てられ、中には小さな聖堂もある。

その後、バチカンもここを聖地と認め、世界中から巡礼者が訪れるようになった。現在の教皇ベネディクト十六世もここを訪れている。

このような経過や、ヨハネの墓の上に建てられた教会などを見ると、あるいは史実かもしれないと思うようになった。

トルコから帰国後、世界遺産について調べていた時、一九九九年に世界遺産に登録されたギリシャの「パトモス島の聖ヨハネ修道院」の説明を読んでびっくりした。

「パトモス島は、古代ローマ帝国の流刑地だったエーゲ海の島である。聖ヨハネは紀元九四年、この島に流され、島の洞くつで神の啓示を受け、新約聖書の『黙示録』を書いた。一〇八八年に洞くつのある丘に聖ヨハネ修道院が建てられた」とある。

一世紀ごろの暖炉に作られている聖母マリアの家の祭壇

それが今、世界遺産の一つになっているのである。

急いで新約聖書の一番最後にある「ヨハネの黙示録」を読む。「私はイエスと結ばれて、その苦難・支配・忍耐にあずかっているヨハネである。神の言葉とイエスの証しのゆえに、パトモスと呼ばれる島にいた」とある。

当時、キリスト教はローマ帝国から迫害され、宣教するヨハネは捕らえられ、パトモス島に流刑され、そこで黙示録を書いたのである。

地図を見ると、パトモス島はエフェソの少し西にある島である。

使徒ヨハネが聖母マリアとともにエフェソに来たことは間違いないと心が弾む。

私たちが「聖母マリアへの祈り」として唱える中に「神の母聖マリア」とある。これは五世紀に開かれたエフェソの公会議で確認された教義であることを思う時、胸が熱くなったのである。

（元山口放送取締役ラジオ局長）

世界から巡礼者が訪れるトルコの聖母マリアの家